

上空百メートルの饒舌

写真文

津島 修三

〈秋田市在住〉

秋田港の岸壁に建つポートタワー「セリオン」の展望台が、今年の4月から無料になった。あとから論評するのは遅くないが、確かにあの展望台でお金をいただくというのはちょっと無理があったのではないかなど、思うのである。

言葉に言い尽くせないほどの絶景があるとか、そこで見れない景色があるというのならばともかく、展望台というものから眺められる景色としては、あえて言わせてもらえるなら、セリオンからのそれは凡庸なものであった。実際、多くの人が、お金を払ってまであの展望台にのぼってみたいとは思わず、セリオンはこれまで多額の赤字を抱えて苦しんできた。

さて、無料化してみた結果はどうか。目を見張るほどのにぎわいが戻ってきているようだ。3月までの閑古鳥が鳴く侘しきとは雲泥の差。大勢の人が繰り出し歓声が飛び交っていると、おのずとこちらの気分も弾む。今さらながら、「にぎわい」とはこういうものなのだなど、思うのである。

タダだから気軽に足を運ぶという現金な考え方と違ってしまえばそれまでだが、お金を払ってまで見たい景色ではなくても、それがイコール「見る価値のない景色」ということではない。お金も時間も気にしなければ、地上百メートルのセリオン展望台から見渡せる景色はいわば「雑学の宝庫」だ。あそこに泊まっている船は何をする船なのか、あの工場は何をつくっているのか、眼下の貨物駅に止まっているタンク車には何が積まれている何に使われるのか、あの長いコンテナ列車は何を積んでどこへ行くのか……。そういうウンチクがあれば、家族同士の恋人同士、あるいは遠来の客と地元の内者の間で、大いに話が弾むはずだ。筆者はたまたま鉄道の知識は多少持っていたので、妻とセリオンに行つて秋田港駅の貨物列車の入れ替え風景を二人で眺めながら、「まるで模型みたいだね」と興味深そうに見ている妻にウンチクのひとくさりも垂れて、しばし楽しいひとときを過ごしたのであった。

地元土崎の年配の方にボランティアガイドをお願いして展望台に常駐してもらってもいいだろうし、展望台から眺められる風景を解説した簡単なリーフレットを作成するのもいいだろう。「無料ですのどうぞご自由にみてってください」ではなく、「ここを見てほしいんです」という、眺望の「意味づけ」を、これからのセリオンには期待したいと思う。

筆者は展望台で撮ったデジタル写真をパソコンで加工してジオラマ風写真をつくってみました。写真ファン、鉄道ファン、船舶ファン等々、さまざまな人がさまざまな楽しみ方のできるセリオン展望台だ

